

令和7年度 公明党 行政調査報告書

1 調査年月日

令和7年11月7日(金)

2 調査項目及び調査地

【調査項目】

生涯現役応援センターについて(千葉県千葉市)

【調査地】

千葉県千葉市

3 議員名

奥野 妙子

長田 旭輝

三吉 芳枝

石川 麻美

徳田 哲

4 調査報告書

別紙のとおり

5 その他

江別市議会公明党 行政調査報告

調査日時 令和7年11月7日(水) 13:30~15:00
調査地 千葉県千葉市稲毛区
調査項目 「生涯現役応援センターの取り組みについて」
報告者 石川麻美

【千葉市の概要】

千葉市は 1126 年に千葉常重がこの地に本拠を置いたことから始まる。千葉開府 900 年を迎える。

東京都心まで約 40 キロ、成田空港まで約 30 キロの位置にあり立地条件は良好な土地で、中央区をはじめ 6 区からなり平成 4 年 4 月に政令指定都市に移行した。

地形は緑豊かな下総台地の平坦地におおわれ、その一部は、東京湾に接しており、温暖な気候と肥沃な土地、豊かな緑と水辺など自然環境に大変恵まれている。

そして、この立地条件の良さを活かしたまちづくりを進め、人口は年々増加している。

人口；986,383 人（2025 年 9 月 30 日時点）

世帯数；503,347 世帯（2025 年 9 月 30 日時点）

面積；271.76 km²

【千葉市 生涯現役応援センターの取り組みについて】

《調査項目》

1. 設立の経緯と背景
2. 利用者の実態と変化
3. 企業や地域との連携
4. 運営上の課題
5. 利用者への支援の工夫
6. 今後の取組の方向性

【生涯現役応援センターとは】

・シニアの皆様が、働きたい！ボランティアしたい！など、社会参加を希望するときのお手伝いをするために千葉市が設立した総合相談窓口です。生涯現役でいきいきとご活躍いただけるよう、様々な相談や情報提供、紹介などを実施しました。また、商業施設のイベントスペース等での出張相談も実施しています。

【事業概要】

○場所；稲毛区役所 2 階、ハローワークが隣接していることから、就労支援に関する相談

が行いやすい体制となっている。

○開所時間；午前 9 時～午後 5 時（土日祝・年末年始休）

○対象者；本市内における就労・社会参加を希望する概ね 60 歳以上の方

○業務内容；

- ① 就労ボランティア活動などの相談、情報提供、仲介、実現までの一連支援
- ② 市内各種団体・機関とのネットワーク構築・維持・協力
- ③ 社会参加、地域づくり、生きがいくくり、求人情報など情報の一元管理
- ④ セミナー・マッチングイベントの企画・運営（年 6 回）
- ⑤ 高齢者に適した就労・ボランティア活動・地域活動先等の開拓・維持・協力
- ⑥ シルバー人材センターと合同で出張相談の実施（年 100 回）
- ⑦ ホームページ管理運営
- ⑧ 無料職業紹介事業の適正運用（監査・罰則あり）

※労働基準監督署の認定を受けているため

○配置職員；3 名（相談・開拓員）※原則国家資格キャリアコンサルタントを配置

※令和 4 年まで 2 名体制だったが、無料相談を年 100 回に拡大したことから 3 名に増員した。

1. 設立の経緯と背景

平成 27 年 1 月、当時の市長から「区役所において元気な高齢者の総合支援事業（マッチング）を設立するように」との指示があり、その後検討を重ねた結果、平成 29 年 8 月に「生涯現役応援センター」を開所することになった。

2. 利用者の実態と変化

- ・利用者年齢の変化として高齢者の若返りにより 75 歳以上の利用が漸次増加している。最多の年齢帯は 65 歳から 69 歳で次に多いのが 70 歳から 74 歳。
- ・また、利用者の居住区の変化もあります。2019 年度に出張相談を実施してから利用者の居住区が平準化しつつある。出張相談実施前の 2018 年度は、拠点のある稲毛区が突出しており 52%だったのが、アウトリーチもあったことから 2024 年度は 27%となっている。

3. 企業や地域との連携

・148 の企業と 26 の就労支援機関や 80 のボランティア団体など合計 329 の企業団体と連携している。

発足した当初は何を取り組むのか試行錯誤しながらたくさんの企業・団体に営業していた。現在も難しいシニア世代の就労ではあるが、その中でも地域新聞の配達やマンションの管理、清掃員など確保している。

・今年度新しくシニアの介護助手説明会を開催。30 名の定員に対して 112 名が参加した。

4. 運営上の課題

・千葉市としては、現状でも多くの市民に利用してもらっていますが、さらには多くの人に利用していただきたい。

また、高齢者人口や元気高齢者の増加とともに、ニーズ等も多様化しているため、応援センターの役割・機能を強化していきたいところですが、現在の組織体制では限りがあると考えている。

・運営事業者としては、要員を増やして、さらに応援センターの役割・機能を強化していく。また、全国のモデルケースとなるような先進的な応援センターを作りたいが、現在の要員数では難しい。

5. 利用者への支援の工夫

①必ずゴールまで伴走

相談だけではなく、相談者が希望する先に仲介と折衝を行い、進路が決定するまで支援し続けるスタイルをとっている。(浅い関わり方で相談者の夢をしぼませてしまうことはしない)

②ゆったりとなんでも気軽に話せる面談、来て良かったと思っただけの面談を目指している

「取り巻く環境」などをじっくりと伺ってオーダーメイドの個別相談を行っている。このため面談時間は1時間をしたまわることは少ない。相談者が笑顔になり、自己開示が進み、深い面談となることが多く、真剣に話を聞いてもらったというだけで満足される相談者も多い。相談員は全員キャリアカウンセラー国家資格者で留守時の臨時職員も国家資格者となっている。

③セミナーとイベントの内容には特別力を入れている

教養セミナーは実績のある講師に依頼し、講師任せにせず講師と一緒に内容を組み立てて開催している。就労イベントは70代以上でも就労可能な企業を招致し、具体的な成果(就職決定)が出るイベントを開催している。ボランティアイベントは簡単に参加でき生きがいに繋がるような活動を展開しているような活動をしている団体を選定して実施している。生涯学習フェスタは4月の新入学に合わせ、毎月2月の時期に開催している。

④スタッフ教育に注力

この仕事は社会的責任が重く、「高齢者」に関する広範な知識が必要なため、スタッフ全員に「ジェロントロジー資格」の取得を課している。その他、事業に関する情報や知識はその都度OJTやミーティングで共有している。

※「ジェロントロジー」とは、高齢化や老化の仕組み・影響・支援のあり方を総合的に研究する学問であり、高齢者が健康で・社会参加しながら尊厳をもって生きるための仕組みを作るための学問であるとも言える。

6. 今後の取組の方向性

・稲毛区役所内の事務所での活動だけではなく、市内各所での出張相談 100 回を継続して開催する等により広く普及させ認知度及び利用者数の増加を図る。

・高齢者人口や元気高齢者が増加しているため、定年退職者だけではなく、現役世代向けに「定年後」をテーマとしたセミナーを行うことにより、早い時期から定年後の豊かな人生を送るための意識を醸成していく。

●その他

事業費；2000 万円（委託費）

評価指標は企業と就労希望者の行動変容、マッチング率としている。

現状それ以外の評価指標で示すのは難しい。

●視察を終えて

千葉市の生涯現役応援センターを視察し、シニア世代が健康で意欲的に働き続けられる環境づくりに向けた取組を拝見しました。

職業紹介だけでなく、相談支援や講習など、行政と関係機関が連携しながら多面的に支えている点が印象的でした。

これからの時代、少子高齢化が進む中で、予防の観点からも生涯にわたって元気に健康で働ける環境を整えることがますます重要になっていくと感じます。

定年を迎えてもまだまだ元気に働ける方が多い今、行政が関連機関と連携しながら就業の機会を紹介していくことは、地域の活力にもつながると実感しました。

当市としても、ハローワークやシルバー人材センターなどと連携した体制づくりを進め、誰もが生涯現役で活躍できるまちを目指していきたいと思えます。